

# 最先端・次世代研究開発支援プログラム進捗管理要領

平成24年5月10日  
平成25年7月18日改正  
最先端・次世代研究開発支援プログラム  
進捗管理委員会

先端研究助成基金助成金により実施される最先端・次世代研究開発支援プログラム（以下「プログラム」という。）の進捗管理は、この要領により実施するものとする。

## 1. 目的

### 【平成24年度】

プログラムの補助事業者（以下「研究者」という。）がグリーン・イノベーション又はライフ・イノベーションの推進を目指し実施する研究開発の進捗状況を確認し、必要に応じて助言等を行い、当該研究開発の目的の達成に資することを目的とする。

### 【平成25年度】

総合科学技術会議最先端研究開発支援推進会議（以下「推進会議」という。）及び総合科学技術会議最先端研究開発支援推進チーム（以下「推進チーム」という。）において実施される中間評価との連携を図るものと位置づけ、中間評価での評価の視点に基づき、研究者がグリーン・イノベーション又はライフ・イノベーションの推進を目指し実施する研究開発の進捗状況を確認することを目的とする。

## 2. 時期

### 【平成24年度】

5月上旬～9月下旬に実施する。

### 【平成25年度】

7月中旬～9月下旬に実施する。

## 3. 実施主体

最先端・次世代研究開発支援プログラム審査委員会委員経験者で構成する最先端・次世代研究開発支援プログラム進捗管理委員会（以下「委員会」という。）で実施する。ただし、必要に応じて委員会委員以外の学識経験者（以下「有識者」という。）の協力を得るものとする。

## 4. 対象

研究者・研究課題を対象とする。ただし、補助事業を廃止又は完了した場合は対象から除くものとする。（平成24年度は、平成22年度及び平成23年度の研究開発の進捗状況を併せて確認する。また平成25年度は、研究開始時から平成25年5月末までの研究開発の進捗状況を確認する。）

## 5. 内容・方法等

### 【平成24年度】

(1) 研究開発の進捗状況の確認にあたっての着目点及び進捗状況

#### ① 着目点

・ 確認対象年度の研究の進展状況

－ 想定された研究体制の下で、研究目的・実施状況に沿って着実に研究が進展しているか

- ・今後の研究の推進方策
    - －研究を推進していく上で問題となる点（東日本大震災の影響などを含む）はないか
    - －研究目的を達成するために新たに生じた課題への対応は十分であるか
  - ・これまでの研究成果
    - －研究内容・研究成果の積極的な公表、普及に努めているか
    - －研究の進展に伴い、特筆すべき研究成果を上げているか
  - ・助成金の執行状況
    - －研究計画に基づき助成金が効果的に使用されているか
- ※上記の着目点により現状を把握し、課題がある場合にはその旨を指摘する。

② 進捗状況

- ・当初の計画以上に進展している
- ・当初の計画どおり順調に進展している
- ・当初の計画に対して遅れており今後一層の努力が必要である

(2) 確認方法

① 「先端研究助成基金助成金（最先端・次世代研究開発支援プログラム）実施状況報告書」（以下「報告書」という。）の内容精査

研究者が作成する報告書について、「先端研究助成基金助成金（最先端・次世代研究開発支援プログラム）研究計画書」（以下、「研究計画書」という。）及び研究計画書（平成22・23年度）に照らし、(1)に掲げた各着目点により委員がその内容を精査する。なお、精査にあたっては、必要に応じて有識者の協力を得て実施することとする。

② 書面による事情聴取及びヒアリング又は現地調査

①の結果に基づき、必要に応じて当該研究者から書面（様式1）により不明点等について事情を聴取する。さらに、必要に応じてヒアリング又は現地に赴き当該研究者との質疑応答及び研究現場の視察等の調査を行うことにより、進捗状況をより詳細に把握する。なお、必要に応じて有識者の協力を得て実施することとする。

(3) 結果・所見の作成及び決定

委員は、担当した研究者・研究課題ごとにその結果・所見案を作成するとともに、委員会に報告する。委員会は、各結果・所見案の内容を確認し、合議により決定する。

(4) 結果・所見の報告、通知及び公表

委員会は、推進会議に対して結果・所見を報告する。独立行政法人日本学術振興会（以下「振興会」という。）は、研究者に対して書面（様式2）により結果・所見を通知するとともに、報告書において非公表とされている項目に係る非公表とすべき所見を除いて、振興会のウェブサイト上で公表する。

【平成25年度】

(1) 研究開発の進捗状況の確認にあたっての視点及び進捗状況の区分

① 視点

- ・目的の達成状況
  - －研究目的の達成に向けて順調に進捗しているか
  - －研究目的を達成するために残されている課題への対応方策は明確か
- ・研究の成果
  - －研究成果に先進性や優位性があるか
  - －研究成果に特筆すべきものはあるか
- ・研究成果の効果
  - －研究成果は、関連する研究分野の進展に寄与が見込まれるか

- －研究成果は、社会的、経済的課題の解決への貢献が見込まれるか
- ・研究実施マネジメントの状況
  - －研究開発マネジメントは適切か
  - －研究成果の発信は十分に行われているか
  - －国民との科学・技術対話の実施状況はどうか

## ② 進捗状況の区分

- ・当初の目的に向け、順調に研究が進展しており、特に優れた成果が見込まれる。
- ・当初の目的に向け、順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる。
- ・当初の目的に対し、計画よりも研究の進捗が遅れており、残余期間で一層の努力が必要。
- ・当初の目的の達成は困難と見られる。

## (2) 確認方法

### ① 研究者による調査票の提出

研究者から報告書に加えて、推進チームから提案された調査項目を追加した調査票（様式3）を提出させる。

### ② 委員会による書面確認有識者の選定

委員会は、書面により研究開発の進捗状況を確認する有識者（以下「書面確認有識者」という。）を研究課題ごとに原則として3名を選定する。

### ③ 書面確認有識者による報告書等の精査

書面確認有識者は、研究者が作成する報告書及び様式3について、研究計画書及び各年度の研究計画書（平成22・23年度、平成24年度及び平成25年度）に照らし、（1）に掲げた視点によりその内容を精査する。

## (3) 進捗状況・所見の作成及び決定

書面確認有識者は、担当した研究者・研究課題ごとにその結果及び所見案を作成するとともに、委員会に対して書面（様式4）により提出する。委員会は各結果・所見案の内容を確認し、決定する。

## (4) 結果・所見の報告

委員会は、推進会議に対して結果・所見を報告する。併せて推進チームに対して結果・所見を提供する。

## 6. その他

### (1) 委員等の留意事項

#### 1) 利害関係者の排除

委員及び有識者が、研究者との関係において次に掲げるものに該当すると自ら判断する場合には、当該研究者に係る進捗管理に加わらないこととする。

- ① 親族関係もしくはそれと同等の親密な個人的関係
- ② 親密な共同研究を行う関係（例えば、共同プロジェクトの遂行、共著研究論文の執筆もしくは同一目的の研究會メンバーにおいて、緊密な関係にある者）
- ③ 同一研究単位での所属関係（同一講座の研究者等）
- ④ 密接な師弟関係もしくは直接的な雇用関係
- ⑤ 進捗管理の結果が委員及び有識者の直接的な利益につながると見なされるおそれのある対立的な関係もしくは競争関係

#### 2) 秘密保持

- ① 委員及び有識者は、進捗管理の過程で知り得た個人情報及び進捗管理に係る情報について外部に漏らしてはならない。
- ② 進捗管理の過程で取得した情報は、他の情報と区別し、善良な管理者の注意をもって

管理しなければならない。

(2) 開示・公開等

1) 進捗管理は非公開で実施するものとし、その経過は他に漏らさない。

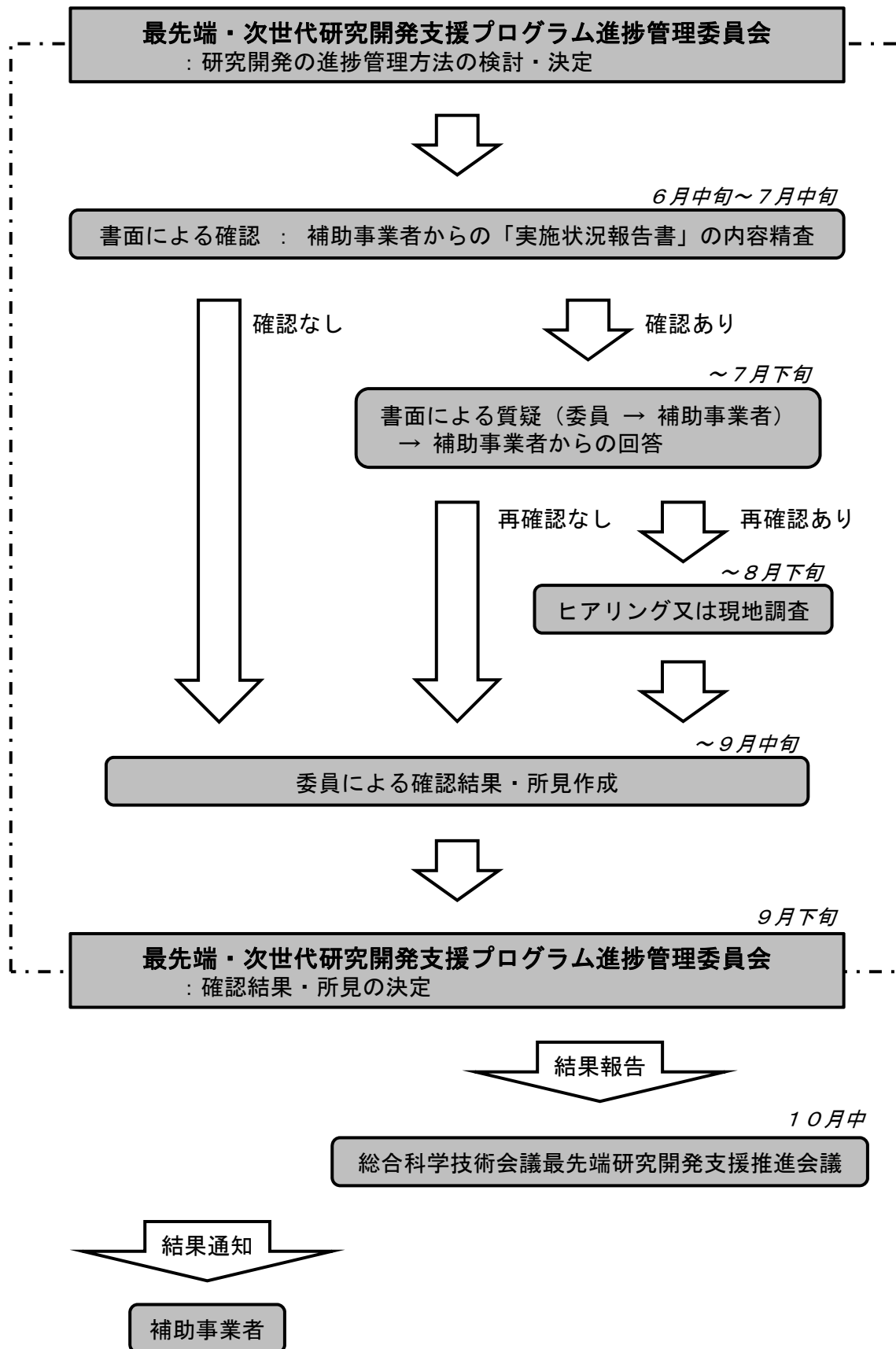
2) 委員及び有識者の氏名、所属機関及び役職名については、振興会のウェブサイト上で公表する。

(3) その他、進捗管理の実施に関し必要な事項は別に定める。

7. 実施手順

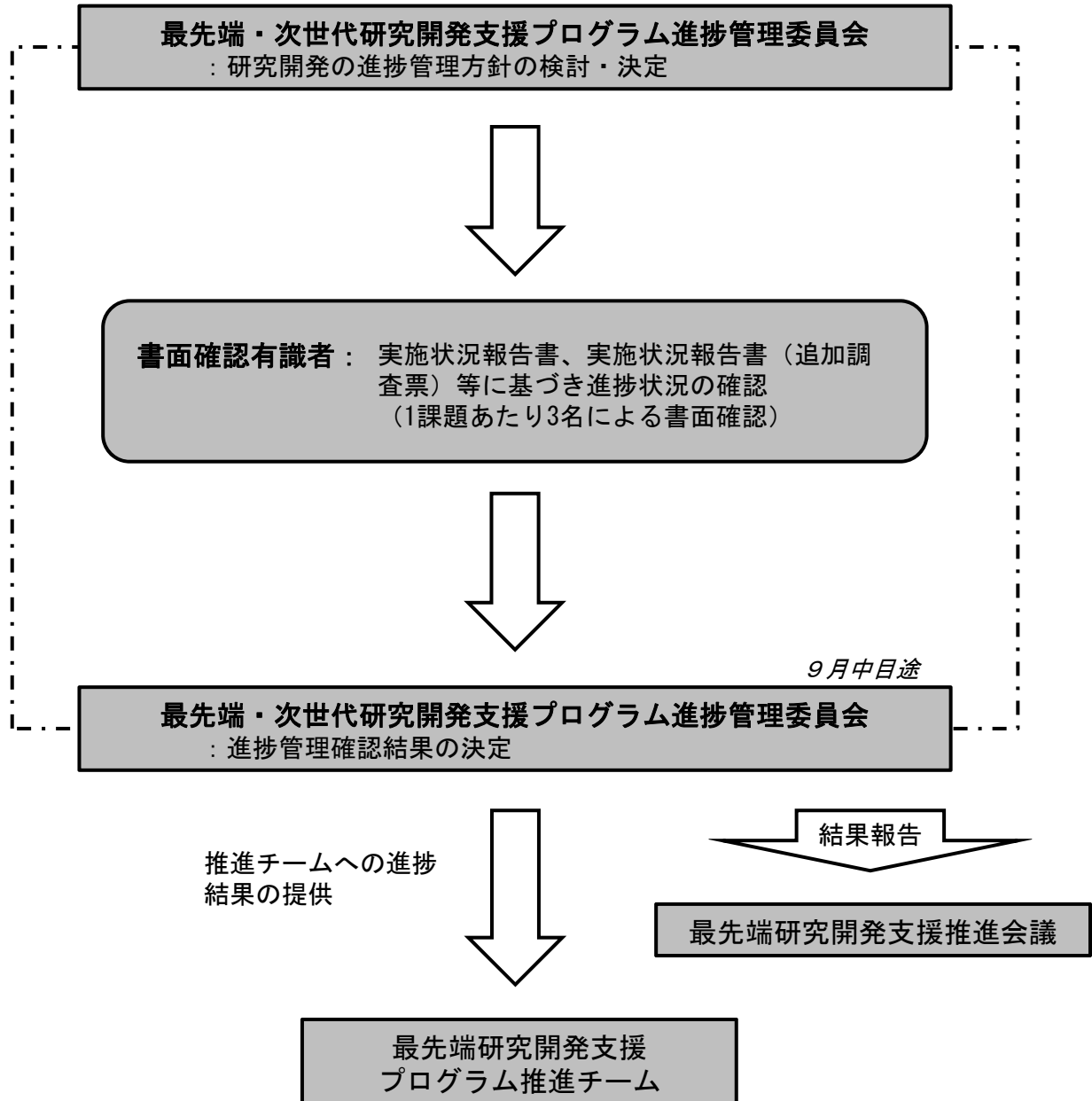
【平成24年度】

平成24年5月10日



【平成25年度】

平成25年7月18日



課題番号

最先端・次世代研究開発支援プログラム  
進捗状況質問・回答票

研究課題名	
研究機関・ 部局・職名	
氏名	

<質問>

<回答>

課題番号

最先端・次世代研究開発支援プログラム  
進捗状況確認結果・所見

研究課題名	
研究機関・ 部局・職名	
氏名	

平成22・23年度における進捗状況

※いずれかに○

<input type="checkbox"/>	当初の計画以上に進展している
<input type="checkbox"/>	当初の計画どおり順調に進展している
<input type="checkbox"/>	当初の計画に対して遅れており今後一層の努力が必要である

<所見>

<特筆すべき点>

<所見> (補助事業者にのみ開示)



課題番号

最先端・次世代研究開発支援プログラム  
実施状況報告書（追加調査票）

研究課題名	
研究機関・部局・職名	
氏名	

※全体で10 ページ以内となるように、積極的に図表等を用いて、簡潔かつポイントを明確にして記載して下さい。なお、記載にあたり、記載量に応じて適宜、枠を調整して下さい。

※平成 25 年 5 月末現在の状況をもとに記載して下さい。

### 1. 目的の達成状況

(1) 研究目的（様式5「1. 研究目的」関連）

--

(2) 所期の目的の達成の見込み（様式19別紙1「5. 現在までの達成状況」関連）

<区分>  ①当初の研究計画以上に進捗しており、目的の達成が見込まれる。 ②当初の研究計画に応じて進捗しており、目的の達成が見込まれる。 ③研究計画より遅れており、現状では目的の達成は困難と見込まれる。

--

(3) 目的の達成に向けて残されている課題への対応方策 (様式19別紙1「6. 今後の研究の推進方策」関連)

<区分>  ①残されている課題はない。  ②残されている課題への対応方策がある。  ③残されている課題への対応方策については検討中。

## 2. 研究の成果

(1) 研究成果 (様式19別紙1「2. 研究の実施状況」、「5. 現在までの達成度」関連)

(2) 研究成果の先進性や優位性及び特記事項

(3) 補助事業期間終了後の研究の取組み

### 3. 研究成果の効果

(1) 関連する研究分野における研究成果の具体的な寄与 (様式5 「3. 研究成果・波及効果」 関連)

(2) 研究成果の社会的、経済的課題の解決への具体的な貢献 (様式5 「3. 研究成果・波及効果」 関連)

### 4. 研究実施マネジメントの状況

(1) 全体研究計画の状況 (様式5 「2. 研究計画・方法」 関連)

(2) 研究実施体制の状況 (様式5 「2. 研究計画・方法」 関連)

--

(3) 研究実施におけるマネジメントの状況

--

(4) 指摘事項への対応状況 (様式5 「4. 指摘事項への対応」、様式7-2 「3. 進捗管理結果を踏まえた対応」 関連)

<区分>  ①指摘事項について全て対応済み。  ②指摘事項について一部対応済み。  ③指摘事項については未対応。

--

(5) 助成金の利活用の状況 (様式19別紙2 「助成金の執行状況」 関連)

--

(6) 研究成果の発信の取組み状況 (様式19別紙1「3. 研究発表等」関連)

(7) 国民との科学・技術対話の取組み状況 (様式19別紙1「3. 研究発表等」関連)

<区分>  ①国民との科学・技術対話の実施が必須である。 ②国民との科学・技術対話の実施が必須ではない。

(注) 平均の年間配分額が3千万円以上(間接経費を含む)である研究課題の場合は、国民との科学・技術対話の実施が必須。

(8) その他

## &lt;書面確認有識者向け&gt; 様式

課題番号	
------	--

**最先端・次世代研究開発支援プログラム  
進捗状況確認結果・所見**

書面確認有識者	研究機関・部局・職名	
	氏名	

研究課題名	
研究機関・部局・職名	
氏名	

※ 合わせて6ページ以内で記載をお願いします。

※ 記入にあたって、記載量に応じて、適宜、枠を調整してください。

<b>【進捗状況】</b> (※ 以下4項目のいずれかの左欄に「○」を付ける)	
<input type="checkbox"/>	当初の目的に向け、順調に研究が進展しており、特に優れた成果が見込まれる
<input type="checkbox"/>	当初の目的に向け、順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる。
<input type="checkbox"/>	当初の目的に対し、計画よりも研究の進捗が遅れており、残余期間で一層の努力が必要。
<input type="checkbox"/>	当初の目的の達成は困難と見られる。
<b>【所見】</b> (※ 以下の「・」ごとにいずれかの口をチェックする)	
① 目的の達成状況	
※ 資料 実施状況報告書（2 研究の実施状況、5 現在までの達成度、6 今後の研究の推進方策）関係	
※ 資料 実施状況報告書（追加調査票）（1 目的の達成状況）関係	
ア) 研究目的（何を開発し、または明らかにするのか）の達成に向けて順調に進捗しているか	
・ 進捗状況は（ <input type="checkbox"/> 順調である ・ <input type="checkbox"/> 順調ではない）	
・ 目的に加えて、具体的な目標が（ <input type="checkbox"/> 設定されている ・ <input type="checkbox"/> 設定されていない）	
・ 所期の目的の達成が（ <input type="checkbox"/> 見込まれる ・ <input type="checkbox"/> 見込まれない）	

イ) 研究目的を達成するために残されている課題への対応方策は ( <input type="checkbox"/> 明確である ・ <input type="checkbox"/> 明確ではない)	
<b>② 研究の成果</b>	※ 資料 実施状況報告書(2研究の実施状況)関係 ※ 資料 実施状況報告書(追加調査票)(2研究の成果)関係
ア) 研究成果に先進性や優位性があるか	
・これまでの研究成果により判明した事実や開発した技術等に先進性・優位性が( <input type="checkbox"/> ある ・ <input type="checkbox"/> ない)	
イ) 研究成果に特筆すべきものはあるか	
・ブレークスルーと呼べるような特筆すべき研究成果が( <input type="checkbox"/> 創出されている ・ <input type="checkbox"/> 創出されていない)	
ウ) 上記の他に特記すべき研究成果はあるか	
・当初の目的の他に特記すべき研究成果が( <input type="checkbox"/> ある ・ <input type="checkbox"/> ない)	



<b>③ 研究成果の効果</b>	※ 資料 実施状況報告書（2 研究の実施状況）関係 ※ 資料 実施状況報告書（追加調査票）（3 研究成果の効果）関係
ア) 研究成果は、関連する研究分野の進展に寄与が（ <input type="checkbox"/> 見込まれる ・ <input type="checkbox"/> 見込まれない）	
イ) 研究成果は、社会的、経済的課題の解決への貢献が（ <input type="checkbox"/> 見込まれる ・ <input type="checkbox"/> 見込まれない）	
<b>④ 研究実施マネジメントの状況</b>	※ 実施状況報告書（3 研究発表等、5 現在までの達成度、6 今後の研究の推進方策）関係 ※ 資料 実施状況報告書（追加調査票）（4 研究実施マネジメントの状況）関係
ア) 研究開発マネジメントは適切か	
・ 研究目的の達成に向けて研究計画は（ <input type="checkbox"/> 適切 ・ <input type="checkbox"/> 不適切）	
・ 研究実施体制は（ <input type="checkbox"/> 適切 ・ <input type="checkbox"/> 不適切）	
・ 適切なマネジメントが（ <input type="checkbox"/> 行われている ・ <input type="checkbox"/> 行われていない）	
・ 助成金は有効に（ <input type="checkbox"/> 利活用されている ・ <input type="checkbox"/> 利活用されていない）	
・ 指摘事項への対応状況は（ <input type="checkbox"/> 適切 ・ <input type="checkbox"/> 不適切）	
イ) 研究成果の発信は適切に行われているか	
・ 論文発表、会議発表、知的財産権の出願・取得、一般雑誌等による研究成果の積極的な公表等については（ <input type="checkbox"/> 適切に行われている ・ <input type="checkbox"/> 適切に行われていない）	

ウ) 国民との科学・技術対話の実施状況はどうか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民との科学・技術対話の実施は（<input type="checkbox"/>必須である ・ <input type="checkbox"/>必須ではない）</li> </ul> <p><b>（注）平均の年間配分額が3千万円以上（間接経費を含む）である研究課題の場合は、国民との科学技術対話の実施は必須</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民との科学・技術対話について（<input type="checkbox"/>効果的に実施している ・ <input type="checkbox"/>効果的とは言えないが実施している ・ <input type="checkbox"/>実施していない）</li> </ul>
<b>⑤ 総合所見（改善を要求する事項を含む）</b>